



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 石

◎石叫■

「大きな喜び」②

私はマークのお棺を見ながら頷くと、『マークはいつもあなたのことを話してましたよ』と彼はポツリと言った。葬儀の後、マークの両親が何か見せたいと言う。『マークが死んだ時、彼が身に付けていたものです。先生なら分かるかと思っただけです。それは彼のポケットにあった二枚の擦り切れた紙で、何度か何度かテープで貼ったものだった。それはかつて中学校の数学の時間にお互いの長所を書いたものだった。』先生、ご覧のようにマークはそれを宝のように大事にしていたんですよ。(Treasured it という言葉を使用)。そこに集まったマークの友人たちも異口同音に、『僕も大事にしているよ』、『私は結婚アルバムに貼ってあるわ』、『私もよ』、『僕は日記に』、『私は今も肌身離さず持っているわ』、『私は皆が大事に持っていると思うわ』と言ったものだった。その時、私はしゃがんで、泣き出した。彼に再び会えない哀しさに泣いたのだった。

マークはその二枚の紙片を後生大事に身に付けていた。それは彼にとって最も大切な宝の一つだった。生涯持ち続けていたものだった。そこには、こんなにも自分には愛される所があったんだという驚きと、隣人に認められているという安心感と、生きることに喜びを見出した瞬間でもあった。愛され、認められ、感謝されている自分、それがその人をどれだけ励まし、勇気づけることであろうか！それはマークはじめ彼らにとって、結婚アルバムに貼るほど、毎日ポケットに入れて持って歩きたいほど、いつもいつも確認したくなるほどに大事な大事な宝であった。逆に、それだけお互いは愛を必要とし、お互いに認められたいと願い、感謝されたいと思っているということなのであろうか！

エルサレム近郊にいた羊飼いたちが天使の声を聞いて救い主に会いに行ったという記事がある。それは天使によって「大きな喜び」(ルカ2・10)だと言われている。羊飼いとというのはユダヤの社会では最下層に位置する人々であり、彼らの多くは犯罪人のように世のつまはじきにされたような人々であった。一体彼らに何の喜びや希望があるというのか。でも、救い主は彼らにこそ現れたかったのだ。人に見捨てられたような、本当に心貧しく、何の頼るものもなく生きねばならないような彼らであったればこそ、主は救いの手を差し伸べたかったのだ。それは彼らにとってもまさに大きな喜びであった。人は捨てても神に愛されているという実体験こそ生きる力である。その神の愛はすべて求める者に約束されているものである。それはあなたにこそ与えられている！(完)

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

